

■ミラノ万博閉幕！ 184 日間の会期を終え日本館閉館

本通信において、とうとうミラノ万博閉幕・日本館閉館のトピックをお届けする日がやってきました。皆様の長きに渡るご支援・ご協力に、関係者一同より改めて感謝申し上げます。

「地球に食料を、生命にエネルギーを」をテーマに開催されたミラノ万博は、5月1日からの184 日間の会期を終え 10 月 31 日をもって閉幕しました。

農林水産省および経済産業省を幹事省、国土交通省を副幹事省、日本貿易振興機構（JETRO）を参加機関とし、「Harmonious Diversity ー共存する多様性ー」をテーマに出展した日本館。万博会場内でも有数の人気パビリオンとなり、会期中 228 万人の来館者をお迎えしました。万博全体の総来場者数は2150 万人に上り、約 1 割の方々が日本館に来館された計算となります。イタリア、欧州をはじめ世界中のお客様が訪れ、来館者からは「日本食のバリエーションの広さに驚いた」「日本に行ったことはないが、強い興味を持つようになった」といった声が聞かれました。

万博最終日である10 月 31 日の夜 21 時に、スタッフ全員により最後のお客様をお送りし、日本館運営に幕を閉じました。閉館式では、加藤辰也日本政府代表より、無事閉館に至った喜びとともにご協力頂いた多くの関係者への謝意が述べられました。

□本件に関するプレスリリースは以下のURLよりご覧いただけます。

（日本館の軌跡、出展の成果等を紹介していますのでご参照ください）
<http://www.expo2015.jp/news/pdf/press_release_151102.pdf>



菰樽ディスプレイ前で日本館の閉館を宣言



アテンダントによる最後のお客様の送り出し

日本館閉館式。スタッフ全員で記念撮影

■日本館がパビリオンプライズで「金賞」受賞！

閉幕の直前に日本館に嬉しいニュースが舞い込んできました。博覧会国際事務局（BIE）が主催するパビリオンプライズ（※1）で、日本館が展示デザイン部門で「金賞」を受賞。自然と技術の「調和」が評価され、10月30日の授賞式で表彰されました。登録博覧会（5年ごとに行われる大規模の万博）における日本館の「金賞」受賞は史上初の快挙です。このほかにも多数のアワードで受賞するなど（※2）、日本館が各所で高い評価を受けています。

来館者へのアンケートでも、日本館の総合評価は4項目のうち上位2項目（「良かった」「まあ良かった」）が98.0%に上ったほか、「日本への理解・興味が深まったか」という調査では、同じく上位2項目（「深まった」「まあ深まった」）が91.9%を占める結果となりました。また観覧後の感想では「これまで訪問したパビリオンの中で最も魅力的だった」や「入念なつくりで、印象的な展示が非常に素晴らしかった」といった回答が寄せられました。このほかイタリアの農業団体（Coldiretti）による調査でも、「最も好きなパビリオン」で日本館が1位に選ばれるなどの高評価を頂きました。

※1 博覧会国際事務局（BIE）が主催する褒賞制度。ミラノ万博では出展面積の大きさに応じ 3 つのカテゴリー（2,000㎡超の自己建築型パビリオン、2,000㎡以下の自己建築型パビリオン、クラスター）に分けられ、各カテゴリーに「展示デザイン」「テーマ」「建築・景観」の3部門が設けられ、優れた外国パビリオンに対し金・銀・銅賞が授与された。日本館は 2,000㎡超の自己建築型パビリオンの展示デザイン部門で金賞を受賞した。

※2 EXHIBITOR Magazine社（米国）によるパビリオンアワードでScene I「Harmony」がBest Presentation賞を受賞、Classeditori社（イタリア）による Expo Pavilion Heritage Awards で受賞。



BIEパビリオンプライズ授賞式
（右：トロフィーを掲げる加藤辰也 日本政府代表、中央：銀賞の韓国館、左：銅賞のロシア館）

<BIEパビリオンプライズ結果一覧>

カテゴリー	部門	金賞	銀賞	銅賞
2,000㎡超の自己建築型パビリオン	展示部門	日本	韓国	ロシア
	テーマ部門	ドイツ	アンゴラ	カザフスタン
	建築部門	フランス	バーレーン	中国
2,000㎡以下の自己建築型パビリオン	展示部門	オーストリア	イラン	エストニア
	テーマ部門	パチカン	モナコ	アイルランド
	建築部門	英国	チリ	チェコ
クラスター	展示部門	モンテネグロ	ベネズエラ	ガボン
	テーマ部門	アルジェリア	カンボジア	モーリタニア

■ミラノ万博閉幕式、マッタレッタ大統領が閉幕を宣言

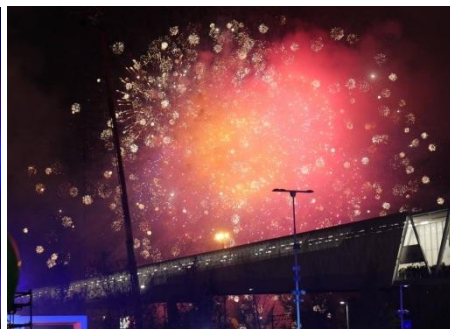
ミラノ万博184日間を締めくくる閉幕式は、10月31日18時より万博会場内オープン・エア・シアターで行われました。多くの登壇者の中でもひととき注目を集めたのは、開催国イタリアのセルジョ・マッタレッタ大統領でした。マッタレッタ大統領は「私たちに課された挑戦は成功に終わった。ここから前に進んでいきましょう」と万博の成功を称え、閉幕を宣言しました。また、食料についての権利と責任を謳った「ミラノ憲章」を発表し、ミラノ万博のメッセージを未来へつないでいくことの重要性を述べました。

また、次期博覧会の開催地への万博旗の引き渡しが行われました。続く万博は、2017年にカザフスタンのアスタナで3カ月間の認定博覧会が、続いて2020年にアラブ首長国連邦のドバイで6カ月の登録博覧会が開催される予定です。「未来のエネルギー」をテーマに開催されるアスタナ博に向けては、経済産業省を幹事省、文部科学省、国土交通省および環境省を副幹事省、日本貿易振興機構（JETRO）を参加機関とし、日本館の出展準備を進めています。



ミラノ万博閉幕式

閉幕式のフィナーレは、万博会場を囲む四方より打ち上げられた盛大な花火でした。なお万博会場の今後ですが、現地報道によれば、イタリア館のほか、パビリオン・ゼロ、生命の樹等の施設が残されることが検討されており、来春を目途に一般公開が予定されているとのこと。



【写真（左より）】①サーラ ミラノ万博公社代表、ロセルトレス BIE事務局長のほか次期博覧会関係者らが登壇、②セルジョ・マッタレッタ伊大統領、③閉幕の夜空を彩った花火

■ イベント広場 10月開催の様子

- ①「ユネスコ食文化創造都市 鶴岡」(10月2日～3日) 鶴岡市(山形県)
- ②「湊まち・にいがたからの食文化創造」(10月4日～5日) 新潟市(新潟県)
- ③「北海道の日」(10月6日～8日) 2015年ミラノ国際博覧会北海道実行委員会
- ④「『農業県やまがた』からヘルシー&豊穡、幸せな田舎生活の提案」(10月9日～10日) 山形県ミラノ国際博覧会出展等実行委員会
- ⑤「ふくしまウィーク」(10月11日～14日) 福島県
- ⑥「ディスカバーGIAHS～日本が誇る農業遺産～」(10月16日～21日)
世界農業遺産広域連携推進会議(石川県・静岡県・熊本県・大分県・新潟県)
- ⑦「新潟米PRイベント」(10月22日～23日) 新潟県
- ⑧「禅(ZEN)と精進料理の福井」(10月24日～27日) 福井県
- ⑨「『絹の国』ぐんまから食のおもてなし～ミラノとの交流再び～」(10月29日～30日) 群馬県ミラノ国際博覧会出展等協議会

